

小谷城懷古（榛葉竹庭）

將星更不顧輸瀛 強別妻孥貫款誠

今日丘墟荒草裏 翠 燭有掛清聲

將星 更に 輸瀛を 顧みず

強いて 妻孥に 別れて 款誠を 貫く

今日 丘墟 荒草の 裏

翠筠 獨り 清聲を 掛くる 有り

解説 天正元年（一五七三）八月織田信長け、越前の朝倉義景を滅ぼし、余勢を駆つて一気に妹お市の婿、浅井長政を攻撃した。朝倉を失つて孤立無援の小谷城は既に信長の敵ではなく、落城間近と悟つた長政は、お市と三人の娘を城から脱出させ、自身は壮烈な最期を遂げたのである。

語釈 ※將星||將軍。※輸瀛||勝敗。※妻孥||妻子。※款誠||まごころ。※丘墟||荒れた遺跡。※翠筠||翠竹。

通釈 勝敗を無視し、朝倉家との信義を重んじた長政は、強いて妻子を城から脱出させた後、城を枕に討ち死にしたのであった。今日雑草の生い茂る城趾の中に、嘗てその節を曲げなかった主人にも似た竹が、高く聳え立って清らかな風聲を掛けている。